

福島大学×二本松市北戸沢保全会

2025年 2月8日

福島大学 岩崎ゼミ

1. 地区の概要と課題

○地区の概要

- ・二本松市東和地域に位置する中山間地域
- ・少子高齢化や耕作放棄地、里山の荒廃などの問題

○取り組むべき課題

1年目の取り組み：地域の方々との交流、保全会活動の参加

2年目の取り組み：里山の道（屋敷道）を活用したフットパスの整備、「戸沢さんぽみちマップ」の作成

3年目の取り組み

⇒地域の方たちが望む「地域活性化」とはどのようなものか

⇒「次世代が自分から“戻ってきたい”と思える地域にしたい」という願い

⇒地域資源の豊かさや人びとの地域への思いを次世代に継承するために

⇒「**集落史—戸沢地区の“これまで”と“これから”**」の作成



2. 今年度実施した取り組み

- ①活動の打ち合わせ（5/26,6/9,10/26）
- ②Instagramでの発信開始（5月～）
- ③保全会の草刈り活動ボランティア（6/30）
- ④『東和町史』を読んで、戸沢の歴史・歴史資源を把握（7月～）
- ⑤戸沢地区のあるもの探しツアー（9/17）、地域資源マップづくり

⇒ななくさ農園、白鬚神社、田向の湯、旧北戸沢小学校跡、愛蔵寺、最勝寺、香野姫神社など

- ⑥白鬚神社の例大祭・竣工式神事への参加（10/13）
- ⑦住民の方へのインタビュー調査（11/16、12/1）、芋煮交流会

⇒保全会のメンバーを中心に、計17名に対しインタビュー。自分史と戸沢地区の未来像について

- ⑧「記憶の場所」のマップづくり、インタビュー調査の文字起こし、『集落史』の編集活動（12月～）



インタビュー調査～生活史の聞き書き

・保全会のメンバー17名の方にインタビュー調査を行い、生活史の聞き書きを行った。

お一人お一人の人生の歴史に加え、地域の暮らしや生業、里山資源の活用の変化、地域への愛着や思いについて、住民自身の語りを通して知ることができたのは大きな成果だった。



「地域資源カード」「記憶の場所マップ」の作成

- ・現地を歩いて学生目線で見つけた地域のお宝を発掘し、「地域資源カード」を作成するとともに、住民の方々のお話から、今は残ってはいないが、思い出として存在する地域資源を書き起こし、「記憶の場所マップ」を作成した。
- ・学生目線で見つけた地域の魅力に加え、住民の方々の思い出の場所をマップとして残すことで、地域の潜在的な宝物を新たに知ることができた。

二本松市戸沢地区 地域情報カード

タイトル
はさがけ
キーワード
稲 乾機

撮影年月日: 2024年9月17日
記入者名: 五十嵐 日菜
カード番号



田向の湯の近くで行われていたはさがけの様子である。戸沢は、棒掛けの方法だった。

はさがけとは、刈り取った稲を束ねて木組みや棒などに架け、天日と風によって乾燥させることである。はさがけの方法は、地域によって異なり、地干し、立干し、架干し、棒掛けの4種類があるようだ。

二本松市戸沢地区 地域情報カード

タイトル 田向の湯

キーワード 地域資源の活用 自然

撮影年月日: 2024年 9月
記入者名: 井上 廣介
カード番号 01



保全会の皆さまが中心となり、水を引ける場を作成。周りには森や田んぼがあり、風情がある風景が広がっている。

今ではあまり見ない井戸のようなもので、見た当初は驚きが大きかった。このような装置を実際に動かした人はあまりいなうため、今後動かす機会があればぜひやってみたい！



3. まとめ

- ・地域の歴史を個人の生活史をもとに構築することで、「ここに生まれてよかった」「これからも、この地を守り育んでいきたい」という思いを地域で共有するための取り組みを進めることができた。

- ・戸沢という**地域の遺伝子（地域アイデンティティ）**を将来世代に引き継ぎ、これから先の地区の未来像を描くために

⇒人びとの能動性を高め、「**役に立つ過去を生かし、懐かしい未来を描く**」取り組みへ



4. 今後に向けて

○集落史「戸沢地区の“これまで”と“これから”」を発行し、住民の方や他出子の方々に配布

(1)戸沢地区のさまざまな世代が集落について共通認識をもつ教科書的作用

(2)集落の文化、慣習を保存する史料的役割

(3)ゼミ活動のスムーズな引継ぎを助ける役割

○戸沢地区の“これから”に向けた活動

(1)地区の若者世代や女性たちとの交流

(2)保全会の持続可能な活動を支援

(3)記憶の中の行事を、学生が協働して復活

⇒地域のバトンを次世代へつなぐ



ご清聴ありがとうございました。